

大会に寄せられた メッセージ

2011年9月9日～10日
全学連第72回定期全国大会

◆星野 文昭

高崎経済大学出身

71年11・14沖縄返還協定批准阻止闘争戦士

「殺人罪でつち上げ」で無期懲役

徳島刑務所在監、獄中37年

今大会は、資本主義・帝国主義が歴史的生命力が尽き、大恐慌・大失業・生活破壊と戦争・原発事故によって人間社会の破壊者に転落しているなかで、この資本・権力を全労働者人民の団結した力で打倒し、全てを労働者人民の手に奪い返し、人間本来の社会を取り戻していく闘いに、職場生産点で闘う労組をうち立て、全世界の労働者人民と一つに総決起する只中で、学生が青年労働者と一つにその闘いの牽引車として総決起していく歴史的大会です。

労働者の団結を破壊し権力を奪い資本が利潤をむさぼる新自由主義の末に、大恐慌を生み、職を奪い、賃金を下げ、生活を破壊し、さらに戦争・核戦争・原発事故まで引き起こす資本主義・帝国主義は、その歴史的寿命が尽きています。明らかに人間社会の破壊者になっています。

大恐慌の激化・深化は、さらに一線を越えようとしています。大恐慌を巨額の財政投入・金融緩和によってのりきるという恐慌対策は、財政危機・国際デフォルト・大破綻へ全世界を引きずり込もうとしています。とりわけ、基軸通貨・ドルの崩壊は世界の通過体制のみならず戦後世界体制そのものを崩壊させるものであり、そのなかで株大暴落が起こり、世界の株式総額7兆ドルが吹き飛んでいます。

起こっていることは、新自由主義が生んだ膨大な過剰資本が引き起こした大恐慌をのりきるために、それがどれほど破局的なものであっても天文学的な財政投入・金融緩和に突っ込み、一時的な景気浮揚・バブル的浮揚はあっても、結局それによってより深刻な過剰資本・過剰資金を生み、大恐慌をより深刻化し、世界経済の大収縮・金融化・ブロック化―争闘・戦争と言う大破局に突入しようとしています。

彼らは、この大恐慌・大破局を乗り切り、利潤と延命を図るためには、それがどれほど自らの危機を深化させることになろうとも、リストラ・解雇、非正規化・賃下げ、大増税によって搾取・収奪を極限化し、争闘戦から戦争・核戦争・原発事故によって生活・生命を根こそぎ奪うしなくなっています。

このことへの労働者人民の根底的決起が、チュニジア・エジプト・中東革命であり、帝国主義中の帝国主義といえる英帝での暴動的決起、米帝の中東支配の要・イスラエルでの大ストライキ決起、中国国鉄労働者のスト決起はじめ全国的暴動的決起であり、そして日本における反原発・反失業の大衆的決起です。

日帝は、大失業・低賃金・大増税と戦争・核武装・原発に大恐慌・大破局ののりきり、利潤・延命をかけています

原発事故は、それを根底から破綻させています。原発は、核の制御が不可能であると同時に、何よりその核分裂生成物の放射能がその外部被爆よりも内部被爆によって、微量でも生命の源のDNAを破壊しガン化するだけでなく、極めて微弱な電気エネルギーで行われている細胞の化学反応による生

命活動を破壊することで原爆ぶらぶら病はじめ原爆症を起こし、健康・生命を奪うことによって、人類とは一ミリとして相容れないものです。

帝国主義戦争・核武装と新自由主義・原発ルネッサンス推進によって原発というこれほど反人民的なものに利潤と延命を求めること自体が彼らの危機を深めるものです。その推進が支配階級の分裂と危機を深め、何より全労働者人民の原発・反失業の「生きさせろ」の大衆的決起を巨大に生むものです。

反原発・反失業と国鉄を一つに闘うことは、資本主義・帝国主義・新自由主義そのものと真っ向から闘うものになり、彼らを崩壊させ倒すものになります。

この中心は青年労働者、学生であり、それは今日の青年労働者の大多数を占める非正規労働者の根底的決起です。

この闘いは資本・権力と一体となった体制内派を打倒し、闘う労組を甦えらせ、全労働者人民の決起をかちとる闘いであり、その最大の力は青年部の再建であり、自治会再建の闘いです。

人間労働は本来、自然と人間、人間と人間の関係を豊かにつくり出しつつ、誰もが人間らしくいきられる営みそのものをつくり出していくものです。

その労働によって生産を担い、社会を動かしている労働者こそが、搾取し収奪し働く場も生活する場も生命をも奪う資本・権力をその団結した力で打倒し、全てを奪い返し、社会の主人公として自己を解き放って、その労働によって誰もが人間らしく生きる社会をつくる力を持っています。そして今すぐにも、そのような社会を実現し運営することのできるものを私達は生み出しています。

このことに絶対的な確信を持って、資本とその権力が強いっている全現実への怒りを解き放って立ち上がり闘い、闘いを通して職場、学園、地域、全世界で闘う団結を強め拡大し、全ての資本と権力を打倒し、全てを奪い返して労働者人民が補い合い、助け合い、力を合わせて、誰もが人間らしく喜びをもって生きられる未来の社会を取り戻し、実現していこう。

帝国主義の戦争・核・沖縄基地と闘い、そして今日の新自由主義と共に闘いつていることへの星野無期との闘いは、格闘を通して、共にそのような闘うことで、全ての闘う労働者人民、国境をこえた絆をつくり、勝利へ進んでいます。

そのなかで無実を証明する一郎丸写真の証拠に開示をちととり、闘う労働者人民の力で、再審無罪・釈放をかちとることを可能にしています。

共にあらゆる困苦を勝利のための糧とし、日々闘い、勝利を、未来を手にしよう。

◆葉山 岳夫

弁護士・第二東京弁護士会所属

動労千葉顧問弁護士団長

「国鉄分割・民営化に反対し、1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動」呼びかけ人

「すべての原発いまずくなくそう！ 全国会議」呼びかけ人

国労5・27臨大闘争弾圧控訴審弁護士団長

三里塚芝山連合空港反対同盟顧問弁護士 救援連絡センター代表

全学連第72回全国大会に結集されたすべての皆さんに連帯のメッセージを送ります。3・11東日本大震災と原発事故による災害は、新自由主義による階級的犯罪行為です。人命無視、安全性無視、利潤追求第一主義の新自由主義がこの災害をもたらしました。すべての原発をいまずぐなくす闘いは、新自由主義打倒、原発容認の野田超反動内閣打倒の闘いと不可分一体です。東北とくに福島の人々の言葉に表わせない苦しみ、怒り、被曝の事実を前にして、第三の原爆攻撃を受けた福島人民とどのようにして連帯して闘うかが私たち全てに問われています。NAZEMの中心軸をになう全学連の皆さんの闘いに、人民は、大きく期待し、連帯しようとしています。最末期帝国主義である新自由主義は、全世界で国家破産、世界大恐慌の二番底に向かって奈落の底に転落しようとしています。新自由主義打倒の先に未来があります。

全世界のプロレタリアートと連帯した闘いこそが人類の未来を切り開くものと確信します。全学連の皆さんの、学生大衆ととけあい、組織する、地をほうような闘いによって、数千の学生大衆を結集した巨大な闘いが必ず実現できると確信しています。

プロレタリアートと連帯して、全世界を獲得するために、ともに闘いましょう。

◆鈴木 達夫

弁護士・第二東京弁護士会所属

元日放労長崎分会委員長

法大弾圧裁判弁護士団長

「国鉄分割・民営化に反対し、1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動」呼びかけ人

「すべての原発いまずぐなくそう！ 全国会議」

呼びかけ人

動労千葉顧問弁護士団

憲法と人権の日弁連をめざす会

全学連が、反原発と反戦政治闘争の先頭に立つ姿こそ、日本階級闘争の最もオーソドックスな形だ。戦後一貫して、学生のたたかいは、屈辱の日々を強いられるプロレタリアート人民にとり、生き方の「灯台」であり、絶望を跳ね返す「光」であった。

法大118名逮捕者全員の完黙非転向は文字通り歴史的快挙として、その団結の輝きが同世代の弁護士をも奮い立たせている。

全国大学で学生自治会を再建し、政治と自由を学生の手に奪還しよう！その熱き戦いは必ず全人民の心をとらえることに確信を！

◆森川 文人

弁護士・第二東京弁護士会所属

法大弾圧裁判弁護士団・「4・24集会弾圧裁判」

主任弁護士

凄惨時代です。生きることが困難な時代であり、未来も展望もありません。但し、この体制のままでは。すなわち、生きていく為に、この体制自体をぶち壊し、新たな時代を、主体的に切り開く、歴史的な瞬間を迎えつつあるということです。

2011年がどういう年だったかということ、後で振り返れば、世界的に見れば、蜂起と革命が始まった年ということになるでしょう。日本に居る私たちは、震災と原発事故を抱え、新自由主義の矛盾が混乱を深めています。

どう迎え撃つか。どう未来と展望を掴むか。すべては君たちの主体的な選択です。もちろん、この時代を生きるすべての人々の選択でもあるので、私も選り、行動したいと思っています。

革命と言われる社会現象は、社会内に潜在していた諸矛盾が爆発的に露呈する、つまりリアルなものを押しとどめていた殻が破れて社会の本当の中身が溢れ出る現象である、とする定義がありますが、今、まさに、殻が破れつつあり、原子力村などの暴露により階級対立が明確になっています。

後は、私たち次第です。殻をすべて破り、リアルなものを露呈させ、革命により新しい時代を共に切り開きましょう！

◆西村 正治

弁護士・第二東京弁護士会所属

法大弾圧裁判弁護士団・副団長

富大弾圧裁判弁護士団

チュニジア、エジプトに始まり、全世界を席卷しつつある青年労働者・学生の革命的蠢動は、新自由主義の実験場千リのゼネスト、そして民族主義・排外主義の呪縛を打ち破って100万人デモを爆発させたイスラエルと、止まるどころを知らない。まさに時代は、青年・学生の革命の時だ。若き青年・学生共産主義者こそ、新たな時代の革命の主体であり、指導部だ。

われわれ弁護士戦線も、新執行部を樹立して勇躍日本革命の最前線に躍り出る全学連の同志たちとたく手を結び、日本革命、世界革命のためにもたたかう。

◆河村 健夫

弁護士・東京弁護士会所属

法大弾圧裁判弁護士団

大会開催おめでとう！

世に暗雲がたれ込めようとも、それを切り開く力が青年たちの中にあります。

偏狭になることなく広く討論をして、持てる力を現実の行動に変えていって下さい。

◆藤田 城治

弁護士・第二東京弁護士会所属

法大弾圧裁判弁護士団

「すべての原発いまずぐなくそう！ 全国会議」呼びかけ人

長年にわたり、水俣病の治療に尽くしてきた原田正純医師は、20年前に著した「水俣が映す世界」で次のように書いています。

「水俣病は鏡である。・・・水俣病の小なる原因は有機水銀であり、中なる原因はチツソが廃液を垂れ流したことであり、大なる原因は人を人として扱わなかったことにある。」現在生じている原発事故・非正規職の大量解雇などなど、現在生じているありとあらゆる矛盾について、そっくり言葉を入れ替えることが出来ます。

資本・企業の利益の追求のために、人間を疎外し続けたこと、この矛盾があらゆるところで噴出していきます。

大なる原因を見据え、一緒に闘っていきましょう。

◆大石 又七

ビキニ水爆実験被爆者・元第五福竜丸乗組員

「すべての原発いまずぐなくそう！ 全国会議」

呼びかけ人

みんなで真剣に考えましょう

ご存じない方も居られるかと思いますが、福島第一原発事故は今から五七年前に起きたビキニ事件の原点にさかのぼって考えなければ正しい答えは出てこないと思っています。

誰がなぜ、この核兵器にも匹敵する危険な原発を、地震大国である日本に導入したか、私はビキニ被爆者としてビキニ事件を調べているうちにいろいろなことが分かってきました。当時アメリカは占領した敗戦国の日本をどのようにして共産圏の侵攻を防ぎ強固な防波堤にしようとしていたか残されている資料から見えてきました。

先ず、世界各国大半が天皇の戦争責任を主張している中で、連合国軍最高司令官マッカーサー元帥は天皇に戦争責任を負わせると日本国民はばらばらになってしまい砦としての役目を果たさなくなる。「天皇制と財閥を残し、温存させて日本をアジアの工場にする（家電や車を作らせアメリカに輸出させて引きつける）。そして多額の政治資金を提供し、反共産の保守大連合を実現させ、強力な親米政権を作り上げる。それをメディアが支える」という政治・心理作戦を行っていたというのです。

そして、そのあと原子力発電の素であるウランを提供し自由諸国の軍事ブロックを築こうとしてCIAの職員を日本に派遣し、読売という大きなメディアを目標に打診してきました。

これを知った読売新聞社主の正力松太郎氏は、日本中が核実験反対で燃え上がっている矛先を変え、復興させるにはこれしかない、原子力の平和利用、平和利用といって自分の持つメディアをフルに利用し、原発導入の宣伝を大々的に行います。しかし、そのうらで彼が描いていたことは原子力発電や原子力船「むつ」を成功させた後に総理の座を得ようとしていたというのです。

政界でも中曽根康弘代議士が青年将校などと言われながら危険が伴う原発を調査もしないでアメリカの意向に沿って原

発導入の先頭に立ち、ビキニ事件の三日後に二億三千万円の原子力予算を国会で通過させます。彼の原発の中には核兵器がちらついていたのだと思います。アメリカの思惑と、日本の思惑は違うところにありましたが導入という点では一致しました。

原発を日本に導入した経緯を知れば今起こっている大事故の責任、賠償の方向性も見えてくるはずですよ。

申し遅れましたが、私は第五福竜丸というマグロを捕る漁船の元乗組員です。アメリカが一九五四年三月一日に広島型原爆の約一〇〇〇倍という巨大な水爆実験をビキニ環礁で行い、その爆発で発生した『死の灰』を大量にかぶり、そのときの灰を日本に持ち帰ったことから太平洋や大気圏が強力な放射能で汚染されていることが分かり大事件に発展してしまっただけです。

このビキニ環礁は負の遺産としてこの度、世界遺産に登録されました。

一九四六年から一九五八年にかけてアメリカ軍だけでも、このビキニとエニウエトク環礁を使って六七回の大気圏核実験を行い、合わせて一〇〇メガトンの核爆発を繰り返しました。

水爆は巨大な爆発威力だけではありません。爆発と同時に二七種類もの恐ろしい放射能を撒き散らします。この一〇〇メガトンの爆発は、なんと広島型原爆を毎日一個ずつ一八年間落としかつ続けた量というから驚きです。それらの放射能は半減期が何十年というもので人間の骨の中に入り込み、染色体を傷つけながら体の内側から攻撃するという内部被爆を起こしていました。染色体を傷つければ死産や奇形児の原因を作りだし、子孫へと繋がっていきます。

これが放射能の恐ろしいところです。骨の中では造血細胞が白血球や赤血球、血小板などを作りだして人間は生きています。それらを時間をかけながら破壊し、がんなどを作り出していました。白血病や骨肉腫を起こすと恐れられたストロンチウム九〇（福島原発事故後からも見つかり始めました）、甲状腺がんを起こすヨウ素一三一（マーシャル島民は五年から一〇年後にも甲状腺がんを発病して亡くなっています）、遺伝子を狂わせるセシウム一三五、中には半減期（半分になるのにかかる時間）が二万四〇〇〇年かかるというプルトニウム二三九も含まれています。重要な点は、目に見えない放射能というミクロの世界であるということです。半減期の長い放射能が食物連鎖や風などに乗って地球を漂い、誰のどこに取り付くかは現在の医学では計り知ることができません。

一九四〇年代から五〇年代にかけて各国の核実験が地球上のあちこちで始まりました。大量の放射能が大気圏や地球上に振りまかれています。そのことを裏付けるように六〇年頃から世界でがん患者が急増し、日本でも今死亡率のトップはがんで、年間三五万人といわれています。

私は、この放射能がその一因になっていると思っています。貴方もすでに被爆者になっているかもしれません。

私たち二三人の乗組員のうち、半数がすでに被爆と関係あるがんで亡くなりました。

私も肝臓がん、最初の子どもは死産で奇形児、今も白内障、気管支炎、不整脈、肺には腫瘍を抱え臭覚も消え、三二種類もの薬を飲みながら命をつないでいます。しかし日本政府は

この大事な事件を被爆者や被害者の頭越しに、わずか九カ月で政治決着を結んで解決済みにしてしまいました。そのため私たちはその時点から被爆者ではなくなり亡くなっても発病しても援助も治療も原爆手帳も受けていません。私も差別や偏見を恐れて、被爆者であることを隠し東京の人ごみに隠れていましたが、退院後に、仲間たちが一人ずつ亡くなって行き自分にも次々と不幸が襲ってくる。この恐ろしさが何事もなかったかのように忘れられていくことの悔しさが募り、当事者が声を上げなければ又必ず同じようなことが起きる、と思うようになりました。

それからは放射能と内部被爆、核兵器と原発の怖さを何十年も伝え続けてきました。

ビキニ事件は日米間の政治がらみのため、元漁師で洗濯屋の親父が一人で訴えてもなかなか振り向いてはくれません。

東日本大地震が三月十一日とうとう牙をむきました。そして恐れていた原子力発電所が高さ十五メートルの大津波で破壊され、大災害の上に放射能が襲い掛かっています。

私は言いたいです。東海村の原発とビキニ事件は大きな関わりをもっているのに今は誰の口からもビキニ事件という言葉が出てきません。当時、核、放射能の恐ろしさをあれほど教え警告し平和運動の原点まで作ったのに、事件を隠した結果がどうになりましたか。二万三〇〇〇発の核弾頭が出来上がり、人類を脅かしています。

こともあろうに自民党政権は被った膨大なビキニ事件の被害額をわずかな見舞金に変え、国際法違反の責任も問わず、アメリカの核実験を容認し、協力するなど国会で発言し、それらの擁護を取引材料にして正力松太郎、中曽根康弘、日本テレビの重役だった柴田秀利各氏たちが水面下で原子力技術やウラン、原子炉をアメリカに要求し東海村に導入したのです。後にアメリカ国立公文書館からそれらの資料が見つかり明らかになりました。

原発導入には、当時大勢の人たちが日本列島は活断層が網の目のように走っている、「危険だから危ない」といって反対しました。その答えが今出ているのです。もし直下型地震だったら、原子炉の破壊がおこり北海道から沖縄まで、いや世界中に被害は広がっていたはずですよ。

ビキニ事件以来半世紀以上、歴代の自民党政権は核兵器と放射能の恐ろしさを隠したまま安全だ安心だといって国民に教えてきません。これこそが流言飛語以上の重大な責任です。そのため大人になっても怖さを知らず反対もしない。目の当たりにして初めて驚き、恐れおののいているのではないのでしょうか。それは学者も各政治家も同じで、自ら原発は安全で安心だという幻想をいつの間にか信じてしまい、この凶器を利益を追求する企業に持たせてきました。自己が起きても企業には賠償する能力などないことは素人にも分かっています。

難問の廃棄物の処理方法もまだです。ビキニ事件後に生まれ、原発導入の経緯を知らない政治家たちがまるで現政権の責任でもあるかのように、苦しんでいる被災者をそっこのけにして足の引っぱり合いをして国会で騒いでいます。今は野党だ保守だなどと言っている場合ではありません。目の前の難問を力を合わせて解決させ、後に言いたいことがあるなら存分に言い合えばいいのに。

これから膨大な財源が必要になります。原発導入に関わってきた者たちは、原発に有利な計らいをしてその見返りに利権、政治献金や地位など、甘い汁にたっぷりありついてきたはずですよ。

自分たちの思い違いで大勢の人たちが苦しんでいるのです。責任を感じるなら、溜め込んだ財産や資産はすべて差し出し（せめて50パーセントは）、苦しんでいる人たちに頭を下げてください。それでないと帳尻が合いません。太平洋戦争の指導者たちとちつとも変わっていない、これが日本人の特質なのでしょうか。

あと一つ言いたいことがあります。アメリカ軍と軍事同盟を結び、毎年五兆円もの税金を使って人を殺すための軍事訓練を重ねている自衛隊は、日本国憲法に従って今すぐにもやめ、災害救助隊に名前も内容も替えるべきだと思います。私は何年も前から子どもたちにこのことを言い続けてきました。災害地の現場からテレビで映し出されるたびに、救助隊のヘリコプターが今、一〇〇機二〇〇機現地に出動していたら多くの命が救えるのに、飢えと寒さに震えているあそこにはヘリコプターなら行ける、有事なのだ。自衛隊は何をしているのだ。イライラしながら見ていました。核兵器を積んで他国を攻撃する最新鋭のハイテク飛行機は要らない。ミサイルやたくさんのレーダーを搭載して人を殺していく四〇〇〇億円もするイージス艦も要りません。

大災害が発生して五日後に、北沢防衛大臣が自衛隊の出動を検討していると言いました。この間にどれだけ住民が苦しみながら死んでいったか。悔しかったです。

憲法九条を持つ日本が世界に貢献しなければならないのは強力な災害救助隊だと思います。毎年繰り返される災害に一刻も早く出動し、助け、喜ばれ、信頼される救助隊。これこそが核兵器や戦争を無くして平和に向かう早道で、二一世紀の人類が目指さなければならぬ目標だと思っています。

◆国鉄水戸動力車労働組合

法大弾圧闘争に勝利した全学連のみなさんに連帯のメッセージを送ります。

3・11東日本大震災後の全学連大会は意義深いものであると同時に、重大な大会であると考えています。

今まで通用していたことが全く通用せず、資本家階級は大変な危機の中に突入しています。福島第一原発事故は、そのことをまざまざと示しています。福島県3キロ圏の大熊町、双葉町の住人が一時帰宅しましたが、30ミリシーベルトという放射線量が観測されました。もう帰ることができないことがはつきりしました。

大学の御用学者ども、自民党、民主党、日本共産党、社民党、連合、全労連、東電などが、全部グルになって原発を建設してきた結果が福島第一原発事故を引き起こしたのです。

今学生に必要なことは何か？抵抗するな、逆らうな、怒るなどということに対し、法大闘争は大勝利してきました。とにかく社会に目を向け、青年が生きていけない世の中を変えるために闘うことではないか。計算して大企業に入って、仲間を蹴落とすことではなく、新自由主義を打ち倒す中でしか生

さられないということだと思えます。

大学は学生のためにある、大学資本の金儲けのためにあるのではない、抵抗を忘れた青年たちに本格的に火をつけよう。動労水戸は国鉄分割・民営化攻撃に勝利したと言えると思いません。解雇できなかった動労水戸組合員を、「**㊦**は解体・屈服させる事が出来ませんでした。25年という年月を経て、ついにハンドルを取り戻しました。次に闘うのは、不当労働行為を開き直って、金を値切り、昇進差別をやってきた**㊦**を絶対に許さない闘いに立ち上がるということです。

9月18日福島県いわき市において、運転士登用差別事件・最高裁勝利レセプションを開催します。是非参加してください。ここから、外注化攻撃阻止、分割民営化絶対反対の闘いの幕開けです。ともに闘いましょう。
貴全国大会の成功を祈念します。

◆小玉 忠憲

解雇撤回・JR復帰を闘う国労秋田闘争団 鉄道運輸機構訴訟原告

国鉄闘争に対する全学連の支援連帯の闘いに、心から感謝申し上げます。

ご存じのように、昨年「4・9政治和解」によるペテン的「和解文書」すら足蹴にして、JR資本は6月中旬「一人も雇用しない」と政府に「回答」してきました。これを受けて4者4団体は自ら闘争放棄を宣言し、6月末に解散。

国労本部執行部は7月大会を、会場内のホテルには私服刑事を徘徊させ、会場外には制服警官を配置して一般組合員を排除し、権力の完全防衛のもとで開催を強行。そこでの委員長挨拶は、なんと「『連合』への加盟を真剣に議論し、決断と実践に移すときがきている」ということから始まり、出席代議員63名中12名の絶対反対の発言にも係わらず、社民党や共産党系51名の賛成で、解雇者の組合員資格を剥奪する規約改正を強行決定しました。私たちがこのかん、声を大にして批判してきた、これが4者4団体路線の正体なのです。

だが私たちはダテに25年の闘争をしてきたわけではありません。JRの職場では国鉄分割・民営化による矛盾が集中しています。青年労働者を軸とする怒りの団結を徹底的に組織する中で組合員資格を奪い返し、労働組合を現場労働者の手に取り戻して労働運動を必ずや甦らせる決意です。それが全く可能な時代と情勢に突入しているからです。

9・11反原発闘争の大爆発で9・19へ攻め込み、全原発を停止に追い込もう！11・6日比谷1万人集会の成功へ共に進撃しよう！全学連大会の成功を祈念して、簡単ですが連帯のメッセージとします。

◆羽廣 憲

国労小倉地区闘争団

鉄建公団訴訟原告

3・11反革命への反撃として東北大学を先頭に全力で闘われている全学連の皆様にご敬意を表します。

菅政権を倒し、続いて野田政権の打倒に向かって日々奮闘

をしている全学連の闘いは、労働者を激励し、労働運動を刺激し続けています。学生運動の発展が歴史的に要求されている時代、本定期大会は歴史の転換を強制するきわめて重要な大会になると思えます。

労働運動が叩き潰されてきた歴史は国鉄・分割民営化にはじまり、連合の翼賛化が進む中でその最先頭を走る決断をした国鉄労働組合は、苦悶する資本主義体制を擁護する立場を表明する証として24年間解雇撤回闘争を闘い続けた闘争団組合員の組合員資格を7月定期大会で剥奪しました。私たち原告団4名は解雇撤回闘争を闘い続けているにもかかわらず何の説明もなく、組合員資格を奪われたのです。この腐りきった指導部が変わる指導部は、私たち「共に闘う国労の会」が組合員資格を奪取する以外にありません。国鉄闘争も私たちにしかっていません。動労千葉と共に国鉄闘争を国鉄闘争全国運動の発展で切り開きます。電車の検査修善業務全面外注化の組織破壊攻撃との闘いも激しくなります。

大恐慌に悶絶している帝国主義・資本主義を打倒するキーワードはNAZENと全学連の発展にあると思います。国鉄闘争全国運動とNAZENと全学連で革命を実現しましょう。全学連の更なる強固な団結と発展を祈念してメッセージといたします。

◆全国労働組合交流センター

代表 入江 史郎 田中 康宏

全学連第72回定期大会の開催、おめでとうございます。
3・11情勢と真っ向から対決し、反原発闘争の高揚を最先頭で切り開いてきた全学連の皆さんの闘いに深く敬意を表します。

今次大会は、未曾有の大弾圧との死闘に勝ちぬいてきた5年間の法大闘争の勝利を内外に宣言する歴史的な大会であると思います。新自由主義大学と対決する闘う団結をつくりだしてきた法大闘争の地平が、「原発推進と被曝強制の先兵」と化した大学を学生の手に奪還し、「反原発闘争の砦」へと塗り替えていく力となることを確信しています。

菅政権に代わって登場した野田政権は、経団連と連合をバックに、原発推進、大増税、公務員大量首切りを進める超反動政権です。野田は、組閣後の記者会見で「来年4月までに原発を再稼働する」と宣言しました。全原発の停止・廃炉か、フクシマの怒りと反原発闘争の圧殺か、倒すか倒されるかの激突が始まりました。

被曝労働を下請け労働者に押しつけ、労使一体で原発を推進してきたのが、電力総連や電機連合です。連合・原水禁・核禁会議「平和アピール」は、原発への「国民の信頼回復に努める」と言い、鉄鋼、造船などでつくる基幹労連は、「国の責任で再稼働させろ」とわめいています。反原発闘争の帰趨を決するのは、労働組合をめぐる攻防です。

労組交流センターは、職場生産点から9・11―19闘争へ総決起し、連合・全労連幹部の反動的思惑をぶっ飛ばして、反原発闘争への労働運動の歴史的決起を切り拓きます。フクシマの怒りをわがものとし、「すべての原発いますぐなくそう！全国会議」運動の主力部隊となって闘う決意です。

そして、反原発の闘いと一体で、国鉄闘争全国運動の巨大

な発展を切り開きます。動労千葉・総連合の外注化阻止・偽装請負弾効の闘いを先頭に、反失業の闘い、「外注化阻止・非正規職撤廃」の闘いをすべての産別からつくりだしていきます。

労働者を使い捨てにする外注化・非正規化こそ、新自由主義の核心であり、青年から未来を奪っている元凶です。原発下請け労働者の被曝労働は、その極致です。

法人税は免除、労働法制は解体する被災地の「復興特区」と、「大阪都―関西州」を掲げる橋下「維新の会」の「職員・教育基本条例」は、道州制―公務員360万人首切り攻撃、9割非正規化攻撃の始まりです。断固、粉碎あるのみです。

動労千葉の青年組合員をはじめとするJR平成採の決起、郵政非正規ユニオンの闘いを先頭に、今秋、新自由主義と決着をつける勝負にうって出ます。二千万青年労働者の総反乱を切り開いていきます。

全国労組交流センターは、11・6労働者集会一万人結集の実現にむけ、9月10日―11日の日程で、第23回拡大全国運営委員会を開催します。交流センター青年部を再建し、青年の階級指導部を陸続と生み出して、階級的労働運動の牽引車としての労組青年部運動を復権させていく決意です。

青年労働者・学生の力で、核と原発を廃絶し、この腐りきった社会を変革するために、ともに闘いましょう。

◆入江 史郎

スタンダード・ヴァキューム石油自主労働組合中央執行委員長

全国労組交流センター・共同代表

「国鉄分割・民営化に反対し、1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動」呼びかけ人

「すべての原発いまずぐなくそう！ 全国会議」呼びかけ人

全学連が、名実ともに、
全日本、

学生自治会、
総連合、

となることを願ってやみません。

時代を担う者の集まりが、全て予定通りに終わるようなこととはないでしょうか。

それでは、おもしろくありません。

中央執行委員長を26年もやっている者が言えた義理ではありませんが。

◆一般合同労働組合 東京西部ユニオン

(執行委員長 吉本 伸幸)

大会に集まった若いイキの良い学生の皆さん……!

歴史的な2011年の全学連大会の開催、おめでとうござい
ます。

3・11で、福島原発の爆発とともに、俺たちが生きているこの社会の本質がムキ出しになり、いよいよ労働者が労働力商品として競争させられ軽んじられてきた歴史に終止符を打

つ時代がやってきました。

全学連の5年半の激しい法大闘争は、俺たち東京西部ユニオンが、本気で職場で闘おうと挑戦してきた闘いと完全に重なります。その中で不屈に法大当局・国家権力と闘う姿は、常に私たちを奮い立たせてくれました。団結！一言でいえば私たちの武器はこれしかありません。しかし敵は労働者や学生を団結させないためにありとあらゆる手立てを使います。正面の敵だけならともかく、労働組合にも東電労組や連合の幹部のように、資本や国家に労働者を売り渡したり分断する連中、足を引っ張るものもいます。まあ、はっきり言えば、カッコ良く勝てる事の方が少ないし、ちよいと困難にぶつかることの方が多いかも知れませんが、ですよ！。しかし！労働者を絶対に蔑視しないこと、闘って団結を拡大することが勝利の道です。

われわれの団結の中にこそ労働者の未来があること、法大闘争と全学連の闘いはたびたび俺たちをこの原点に立たせてくれました。

俺たちはこの数年で、ストライキも経験し、非正規ばかりの職場の分会も立ち上げ、また激しい分会破壊攻撃や、雇止め⇨解雇、組合つぶしの解雇と、幾たびも闘い抜き、現在もケンカ真っ最中で闘い続けています。青年部も職場での労働強化や分断と闘い抜いてユニオンの先頭で闘っています。日々過酷な労働現場で搾取されながらも、この社会で物をつくり、運び、運営しているのはすべて俺たち労働者です。この誇りを取り戻し、労働者は社会の主人公であり、社会を変える力があるんだと確信して闘います。

今年の9～11月は日本と世界を変える巨大な「ケンカ」です。俺たちは職場を土台にやります！全学連に負けずに俺たちも9月25日には、第10回大会を成功させます。11・6日比谷には、大動員を競い合おう！全学連とわが東京西部ユニオンの連帯と団結は未来永劫に不動です。大会の大成功を祈ります。原発なくして世の中変えよう……!

◆合同一般労働組合 東京北部ユニオン

世界大恐慌・3月11日の東日本大震災・原発事故……世界の帝国主義が音を立てて崩壊していく激しい情勢の中で、未来を担う全学連のみなさんが今こそ意気軒昂と輝き組織を拡大していることがなにより決定的であり、それこそが未来への展望です。菅政権の次に登場した野田政権は原発推進・公務員制度改革を強烈に進めていこうとする超極悪政権です。労働者階級の闘いで打倒する以外にありません。

8月5日に広島で結成された『すべての原発いまずぐなくそう全国会議(通称NAZEN)』では、未来を担う学生と青年労働者が中心となってスタッフ会議を行う関係性が築かれました。先日のNAZEN会議では全学連の学生から「原発労働者と自分たちを切り離すものではなくて、学生も原発労働者と一緒ではないか」という討論がされたという報告がありました。高い学費を払っても、正しいことは教えられない(例えば、この期に及んでもなお原発は安全だとか、直ちに健康に影響はないという論理を主張する教授ばかり)とか、大学の金儲けのために学費が流用されたり、教授たちがいい車乗り回していたり。「こんな大学おかしい！」と声をあ

げたら逮捕される。我慢して大学を卒業しても就職率は70%前後。どうにか就職できても非正規雇用で年収は200万程度。いつ首を切られるかもわからない、そんな中で将来に展望を持たず、年間3万人以上が自殺に追い込まれている・・・。

こういう現状そのものが原発労働ではないかと。だから、L20運動は単に原発に賛成か？反対か？を巡る運動ではなくて、学生がキャンパスを取り戻す、労働者が職場を取り戻す、そういう運動と一体の運動としてあるのではないか？そのような議論だったそうです。

その報告を受けて、9月11日の（もしくはこれからの）原発デモは『原発・反失業』を一体のスローガンとして掲げながら運動を作っていくという方向性で一致しました。その会議に初めて参加した青年労働者は「いろいろな問題を考えたタリがないから僕は原発問題だけを考えようと思つて来たのですが、今日の話聞いてそういうわけにもいかないな」ということがわかりました」と、8月30日に開催された動労千葉主催の集会に参加し、交流会で議論を深める中で「つまり、資本主義社会そのものがダメってこと?!」と感じたそうです。

学生と青年労働者が原発事故に対する怒りで団結し運動を前進させていることは、今後膨大に結集してくる全ての労働者階級にとっての希望となっています。今年の全学連大会でも例年以上の激しい討論がなされると思いますが、議論や討論がなく進む運動などありません。疑問や悩みや自分自身の壁など、あらゆるものをさらけ出しながら全体で前進していくことに階級闘争の魅力があると思います。9月11日の新宿デモと9月19日の明治公園集会を突破口にしながら、多くの大衆を闘う学生運動・労働運動に組織しよう！そして11月6日の集会は日比谷野音のみならず、日比谷公園を埋め尽くすほどの大結集を勝ち取りましょう！私たち、東京北部ユニオンも全学連のみなさんとともに闘います。

◆東京東部地域合同労働組合執行委員長 (合同・一般労組全国協議会事務局長)

小泉 義秀

全学連第72回定期全国大会おめでとうございます。本大会が成功裏に勝ち取られることを確信しています。3・11以降、全学連の仲間の皆さんは被災地の東北大学を先頭に全力で階級闘争の先頭に立って闘い抜き、歴史的な大会を勝ち取られていることに心から感動しています。特に法大における大弾圧をうち破り、法大の中から1年生をはじめ新たな仲間を獲得し、法大から新たな全学連の指導部を生み出す勝利を実現しようとしていることは、全国の学生に勇気を与えるのみならず、多くの青年労働者の共感を呼んでいます。東部ユニオンの仲間も法大包围デモに参加し、法大闘争を共に闘う中で鍛えられました。

新自由主義攻撃は青年労働者と学生をモノのように扱い、生きていけない現実を強制してきました。新自由主義は大破産しながらも、より絶望的にその攻撃を仕掛けてくる以外に生きのびることのできない、帝国主義の最末期の姿です。エジプト革命は今やイスラエルで100万デモを実現する事態に発展しています。日本において全学連が72回大会の成功

を世界に発信することで本当に世界革命を手繰り寄せることができる情勢に来ていると思います。9・11、9・19の原発の大デモ、大集会を勝ち取り、11月1万集会に向かって共に進撃しましょう。

東部ユニオンも8月28日に第5回大会を成功させ、合同・一般労組全国協本部事務所、郵政非正規ユニオンの本部のある拠点労組として飛躍を実現したいと考えています。合同・一般労組の任務は動労千葉の外注化阻止、偽造請負粉砕の闘いのメダルの裏側にある、外注化・非正規職化された職場の労働者を組織化し闘うことです。非正規職撤廃の闘いの具体は派遣法撤廃、雇い止め解雇粉砕です。特に雇い止め解雇の個々の闘いを闘い抜くと同時に、雇い止めという雇用形態そのものの在り方を粉砕する闘いを貫き、青年労働者を組織化して11月1万結集の先頭に立つ決意です。共に闘い抜きましょう。団結。

◆なんぶユニオン(執行委員長 金子 浩)

全学連第72回定期全国大会の開催をなんぶユニオンは心から喜び、熱いエールを送りたいと思います。

この5年あまりの法大闘争に勝ち抜き、本年の全学連大会の開催と成功は新自由主義大学の息の根を止める大会として勝ち取られると思います。

本年の大会で新たな執行部を確立すると聞いております。

被災地フクシマの労働者人民と共に野田政権打倒！すべての原発再稼働を阻止しよう。

なんぶユニオンは大会の成功を祈念してメッセージとします。

◆動労千葉・国際連帯委員会

第72回定期全国大会に結集された全学連の闘う仲間のみなさんへ、動労千葉・国際連帯委員会より熱い連帯のメッセージをお送りします。

3・11の大地震と大津波は、新自由主義の何たるかを余すところなく暴露しました。地方切り捨てのすさまじい現実には2万人にも達する人命を奪い、数十万の労働者を街頭に放り出し、そして人類史上未曾有の原発事故を引き起こし、福島の中で、その農地、森林から海、空までをも奪い尽くさんとしています。

事の大きさに一瞬立ちすくみつつも、動労千葉を支援する会の全国展開の一環として、翌日の3月12日には支援する会・東海が結成され、3月14日には“労働者の力で被災地を救援しよう！すべての原発を撤廃せよ！震災解雇許すな！生き抜くために闘おう！”の闘いの檄が動労千葉から発せられました。

昨年6・13に立ち上げられた国鉄闘争全国運動と3月16日に発足した東日本大震災救援対策本部が、私たちに自信と確信を与え、闘いの「よりどころ」として確固たるポジションにつきました。

そして全学連を先頭とする青年労働者の闘いは、「政治休戦と挙国一致」の大反動の闇を食い破り3・17と3・20闘争として鮮烈な登場を果たしました。“闘いの中で展望をひら

く”このあり方は、5・23文科省闘争など福島のお母さんたちとの固い連帯をつくり出し、全国運動6・5集会を大成功させ、6・11と6・19の“フクシマから世の中を変える”反原発・反失業の荒々しい闘いとなって大爆発しました。

真正面から労働組合と学生運動のあり方が問われる時が到来しました。原発を推進し、20^年を許容して子どもたちを見殺しにする労働組合でいいのか！重層的な外注化・非正規職化と民営化で利潤を貪る資本と真つ向から対決する労働組合につくり変えよう！動労千葉の反合連転保安闘争を自らの職場で実現して行こう！小なりといえども、こういう闘いの機運が全国の職場にみなぎりだしています。

そして、放言・虚言・暴言の限りを尽くす御用学者どもをその椅子から引きずりおろし断罪する闘いが、反原発闘争の奔流の中で全学連の仲間たちにより開始されています。この闘いは「教育の民営化」と対峙して闘う学生自治会を必ずや全国大学に甦らせるでしょう。

3・14の動労千葉の緊急アピールは200万に達するブログに引用され、全世界を席卷しています。反原発・反失業の叫びは、大恐慌の2番底に転げ落ちる帝国主義とその新自由主義攻撃と根底から対決する全世界の労働者人民の闘いの声です。

動労千葉・国際連帯委員会は、全学連のみなさんと共に国際主義の旗を高く掲げ共に闘い抜くことをここに改めてお誓い致します。

◆婦人民主クラブ全国協議会

(代表・丹治孝子)

全学連第72回定期全国大会開催おめでとうございます。

今年の大会は、3・11東日本大震災と福島原発事故後の大会として、特別大きな意義をもって開催しておられると思います。震災・原発事故直後からのみなさんの奮闘が今の情勢を切り拓いてきたと思います。

今、数千万人の単位で人々の価値観が大きく動いているのを感じます。震災も原発事故もこれまでの資本主義最末期の新自由主義の破綻の結果―階級的な犯罪だということの人々ははつきりと見えています。政府・資本には解決能力なんてないことを日々多くの人々が実感し、自分たちでたたかいを求め行動を開始しています。労働者階級が資本家階級からぜんぶを奪い返して、人間の共同性を取り戻し社会のあり方をも一度すべてつくりなおすということを模索しはじめているのではないのでしょうか。

御用学者や御用大学、資本の手先のインチキ学問なんかをぶっ飛ばそう。敗戦後、戦争協力した学問・学者を徹底的に弾劾して焼け野原から続々と学生自治会が誕生したように、今全国の大学から学生自治会をつくりあげていくことが本当に重要だと思えます。その際、法大闘争をはじめこの数年間の全学連のみなさんの資本や国家権力・大学当局と全力でたたかってきた力が本場に生きてくるのではないのでしょうか。全学連の新執行部を樹立すると聞きました。すばらしいです。心から期待しています。

私たち婦民主クラブ全国協議会も、8月末に全国総会を開催しました。みなさんと気持ちは一緒です。5・20三里塚

弾圧の際には、共にたたかいました。ここで実感したのは、100人を超える大弾圧をかちぬいてきた法大闘争を私たちも一緒に実感し、いっしょにたたかいて学んできたのだなということでした。弾圧は逆に組織の団結を固めました。パワーアップさせてくれました。反原発のたたかいに思い切つて飛び込み、職場のたたかいと地域を結んでいきます。9・11―9・19をたたかいて11月労働者国際大会を大きく盛りひらいていきたいと思えます。みなさんと共に進みます。

全学連の大拡大・大発展を！大会の成功を祈念してメッセージとします。

◆部落解放同盟全国連合会・西郡支部

(支部長 岡部 洋)

全学連のみなさん、第72回定期大会の開催おめでとうございます。いつも西郡闘争に参加していただき、学生や若者の社会変革のエネルギーを肌で感じ私たちは元気をもらい、ともに新自由主義とたたかう新たな解放運動を実現する支部1000名建設を宣言するところまで来ました。本当に感謝しています。

私たちは第6回大会で、全国のきょうだい、仲間と共に、西郡支部1000名建設をなんとしても実現することを宣言しました。

この宣言に恐怖した八尾市は、7月28日、応能応益家賃に反対し、供託してたたかう仲間に対して、8月29日までに『滞納家賃』を全額払うか住宅を明け渡せ」という催告書を送り付けてきました。7月26日の岡部、辻西、田中さんたちに対する明け渡しの高裁の反動判決に次ぐ、許しがたい攻撃です。

しかしこの攻撃は、なんの勝算もない、敵の恐怖のあらわれとしか言えません。「応能応益家賃でこれ以上家賃が上がったら生活できない」「機能更新計画で住宅を建て替えても8万円もする。入れない。出て行けと言うことか」「八尾北医療センターを売りとばしたら生きていけない」「小学校、中学校まで統廃合するとはゆるせない」と西郡廃村攻撃に、怒りが噴出してきているからです。

3・11情勢下、応能応益家賃で追い出してどうして生きていけとのかという怒りが噴出してきています。

八尾市の差し押さえ攻撃や明け渡し攻撃、裁判所の不当判決に屈せず、絶対反対の団結、この拡大こそが住宅を取り戻し、生きていく道であることがみんなの核心となって徐々に広がり始めています。懇談会の度に、新しい人が参加してきています。

これに恐れる解同本部派は、供託者に、脅しや、車の窓ガラスを割るなどの嫌がらせを始めてきています。2/26強制執行実力阻止を闘いぬいた花屋の森本さんのところには「何のために今も闘っているのだ。ムラの者はいないではないか。よそ者ばかりではないか。」と言ってきましたが、森本さんが「ムラの者はどんどん増える。労働者との団結を広げていって、かならず住宅を取り戻す」と返したら、ガツクリして立ち去りました。

8月25日、供託者は、八尾市が送り付けてきた催告書に対

して「団結破壊はゆるさない、全員に説明しろ」「八尾市と地区協の結託ゆるさない、裁判所も腐っている、我々は負けないぞ」と八尾市を2時間にあたり弾劾しぬきました。住宅管理課はその迫力にグラグラで、何一つ答えられませんでした。

本当に村が動き始めています。敵も凶暴化してきていますが、これに屈せず分断を打ち砕き、絶対反対の団結でみんなの怒りと結びついていくとき1000名建設に火が付きまします。解放同盟本部派、全国連本部を打ち倒し、新自由主義とたたかう新たな部落解放運動を登場させていくときが来ました。

全学連のみなさん、全国大学に学生自治会をよみがえらせ若者の怒りを爆発させよう。世界中で学生や若者が新自由主義に怒り、革命の最先頭で闘っています。今大会を歴史的大会としてともに勝ち取り、新自由主義を打ち倒す学生運動、労働運動、部落解放運動を大前進させよう！革命をやるろう！11月集会の大結集を勝ちとろう！

◆部落解放同盟全国連合会・杉並支部

全学連第72回大会に結集された若き戦士の皆さんに、心より連帯のメッセージを送ります。

3・11の東日本を襲った震災被害と原発事故は、新自由主義の破産を究極的に明らかにしました。福島第1原発事故は収束するどころか、今も大量の放射性物質がまき散らされ、放射能汚染が拡大しています。東電をはじめとする巨大資本の利益を守るためならば、かけがえのない人間の生命や生活を根こそぎ破壊し、棄民化してもかまわないという、恐るべき事態が進行しています。この国家と資本による犯罪を徹底的に弾劾しなければなりません。フクシマの怒りをわがものとして、原発の再稼働を絶対許さず、「全原発の停止・廃炉！」へ、ともにたたかっています。

新自由主義による民営化Ⅱ労組破壊・団結破壊の攻撃は、一方で部落解放運動の根絶を意図するものでもあります。私たちは、既成の解放運動がこの攻撃に屈服し、体制内勢力に転落するなかで、西郡支部を先頭に新自由主義とたたかう部落解放運動を実践的・路線的にかちとってきました。そのたたかいは、動労千葉を先頭とする階級的労働運動と、法大闘争をはじめとする学生の皆さんのたたかいと軌を一にしたものでした。私たち杉並支部は、全学連の皆さんのたたかいと共に歩んできたことを誇りとしています。未来に向かって躍進する全学連の皆さんと共に、私たちが大いなる飛躍をかちとっていく決意でいます。

狭山闘争の階級的復権をかちとり、狭山第三次再審闘争に勝利しましょう。10・29狭山集会の大成功から11・6労働者集会1万人結集の大爆発をかちとりましょう。「人の世に熱あれ、人間に光りあれ」（水平社宣言）、若き水平社の戦士たちが発したこの言葉をいまこそよみがえらせ、階級の戦士として共にたたかっています。

◆部落解放同盟全国連合会・品川支部

(支部長 佐々木 幸子)

全学連大会第72回定期大会開催おめでとうございます。

8月27日、品川支部第5回大会にご参加頂きありがとうございます。決意表明の中で「新自由主義と対決する新たな全学連運動の建設」と高らかに宣言しました。熱い息吹・パトスに深い感銘を受けました。この場を借りてあらためてお礼を述べさせていただきます。ありがとうございました。

「3・11東日本大震災・福島原発事故」は、2万人に及ぶ死者・行方不明者と、数十万の被災者、数百年にもわたるであろう放射能の日本国中への汚染。今や、民主党政権、資本金、東電への、労働者人民、農・漁民の怒りは燎原の炎となって爆発しています。新自由主義との全面対決、「生きるか死ぬか」「戦争か革命か」を賭けた歴史的決戦に突入しています。正義は私たちにあります。死力を尽くした闘いが求められています。日本革命運動の主流派として登場するかに勝利の帰趨がかかっています。

若き全学連の戦士は、この間、法大闘争の死闘に勝ち抜いてきました。118名の逮捕者、33名の起訴、2ケタを超える停学・退学処分という「弾圧の暴風雨」を人生賭けて打ち返してきました。今や、法大闘争は学生運動の頂点として、全国の大学・学生の決起を陸続と生み出しています。

法大闘争を突破口とした学生運動の高揚。動労千葉を先頭にした国鉄労働者の不退転の決起。そして「国鉄全国運動」の拡大。闘う労働組合の結成。全国連西郡支部を中核とした新たな部落解放運動の建設。三里塚の空港絶対反対の闘い。沖縄、反原発、反失業、「作る会」系教科書採択阻止の闘い。あらゆる闘いは、一歩も譲れない人類の未来賭けた闘いです。共に猛然と進撃しましょう。

全学連の若き同志の皆さん。本大会に残念ながら参加できませんが、常に共に闘い抜いていることを申し添えておきます。全学連第72回大会の成功を祈念して連帯のメッセージといたします。

11月労働者集会の成功に向けて、一切の力を集中しよう。共に闘わん。

◆北島 邦彦

(東京西部ユニオン・前杉並区議会議員)

全学連大会の大成功を心よりお祝い申し上げます。

「3・11」とは何でしょうか？新自由主義の破綻ということにとどまらず、帝国主義の支配体制の根本からの崩壊でした。小泉構造改革政治が破産し、民主党政権による「国鉄4・9」反革命さえも、動労千葉やあくまでも不屈に闘う原告団の闘いによって粉碎されました。そこに「3・11」が襲いかかり、日本帝国主義の最弱の本性を露呈させました。

だからこそ国鉄決戦です。そしてその闘いの質は、法大決戦にも脈々と流れているものです。法大決戦を軸とする全学連の闘いは、やはり「3・11」と対峙する労働者人民の構えの基盤を形づくりました。被災地の闘う労働者のもとに誰よりも早くかけつけた全学連の行動は、その後の被災地支援の方向性を決定づけました。

情勢は「3・11反革命」とも言われています。階級主体のあり方が問われている状況下、全学連が新体制をもって新たな前進を開始していることに、心の底から感動しています。全学連に結集する学生のみなさん！未来はあなたたちのもの

です。ともに闘いましょう！

◆国賀 祥司（泉佐野市議会議員）

全学連大会に結集されたみなさん。

本大会が、新自由主義のキャンパス支配を覆す、300万学生の団結体としての学生自治会の歴史的復権に向け、飛躍のステップとして、みなさんの情熱と若いエネルギーで大成功することを確信しています。

原発事故と青年労働者の半数を非正規に追いこんでいる現在の新自由主義＝資本主義社会は、完全に終わりを迎えました。真の意味で、革命情勢が到来しました。

問題は、私たちが、ブルジョアジーや腐った政治家たちにただちにとって代わる主体的準備を、いかに早く整えるかにかかっていると思います。そのために、新自由主義と真つ向対決する闘う労働組合と学生自治会の歴史的復権をかちとりましょう。それが可能な時代が来しました。

福島・東北の人々を先頭に、大震災と原発事故を経験した労働者・学生が、「この社会を根本から変えよう」と膨大な規模で闘いを開始し、9/11、9/19と巨万の決起に発展しようとしています。

日本学生運動の壊滅をねらった法政大学大弾圧をはねかえし、国際連帯の先頭に立つ全学連の飛躍に大いに期待します。

「原発事故による健康リスクは、全く考えられない」「放射線の影響はニコニコ笑っている人には来ません」と、被爆二世でありながら、デマで福島をはじめすべての子どもたち・若者の命や未来を奪おうとしている山下など腐敗した御用学者。こんな輩がデカイ面をしてのさばり、害毒をまき散らし続けていることなど許せるでしょうか。「原子力村」の拠点である大学を変えるのは、学生運動の力にかかっていると思います。

泉佐野では、関西空港の破たんを労働者と住民に犠牲転嫁する「財政健全化」＝「道州制」攻撃に対して、青年労働者を中心に闘いを続けています。新市長は5月、市職員の給与を一律に2割も削減する攻撃をかけてきました。20代の労働者を、実質非正規と同じ、手取り13～16万円から上がらない状態に叩き込もうとしたのです。私は職員といっしょになって必死で反対運動をやってきました。多くの青年労働者が、30才になっても毎月数万円の奨学金返済をかかえ、「これでは生活できない」「市長を絶対許さない」「未来を奪われてたまるか」と闘いを継続しています。

市長は9月、賃金カット（8%）の3年延長、4年間で100人以上の人員削減、新採ゼロ、消防署まで退職不補充、現業・保育所・事務の民営化・非正規化方針を出しました。まさに「半分の人数で倍働け」、9割非正規化の「道州制」を、労働組合をつぶしてやろうとしているのです。これは泉佐野だけのことではなく、全国で同じ攻撃が激化しています。

青年と腐りきった資本主義社会は非和解です。団結してこの社会を自らの手で根本から変えよう！未来を奪いかえそう！

9/11、9/19の反原発闘争の大爆発勝ち取り、労働運動をぬり変える外注化阻止決戦に突入した国鉄闘争を先頭に、11/6労働者集会1万人の大結集を実現しよう！革命にまっしぐらに突き進もう！ともに闘わん！

◆ドイツ・KR D

（レーテ・デモクラシーのための委員会）

親愛なる日本中の学生、同志、友人のみなさんへ

みなさんの大会がすばらしいものになること、そして11日のデモが大成功することを祈っています。ドイツの私たちKR D（レーテ・デモクラシーのための委員会）のモニカ、イングリッド、ローラはあなたたちと連帯します！

2週間前に全学連と動労千葉の代表団がここドイツを訪問してくれ、私たちとともにマンハイムやケルン、ゴアレーベン、ベルリンなどを回りました。

そこで彼女たちは反核活動家をはじめ多くの学生運動・労働運動の活動家たちと知り合い、さまざまなグループとのイベントも成功を収めました。すでにドイツの多くの人たちと情報を共有し、ともに闘っていますよね。多くの新聞がこうしたイベントを報道したので、全学連は今ドイツでとても有名になっています。

この訪問全体をとおして、私たちは改めてどこでも闘いはひとつだと実感しました！今回の訪独は、国際的な運動をつくりあげていくための大きな一歩になりました。

私たちは、全学連の同志たちが11月にドイツに来てくれたらいいなと思っています。フランスからドイツのゴアレーベンへの核廃棄物の輸送を阻止するために、大きな闘争が行われるからです。

私たちはともに、核の軍事利用・平和利用をとめなければいけません！

世界中のいたるところで、人民がフクシマの原発事故を引き起こしたこの非人間的なシステムに対して立ちあがっています。

イギリスでは、青年が権利のための暴動を開始しました。

スペインとギリシャでは、人民が常に街頭に飛び出し、人間らしい生活のために闘っています。

アラブの革命は、大衆運動にこそ力があること、変革は可能であることを示しました。

チリでは今まさに、10000人以上の学生・労働者が、全世界的な新自由主義攻撃によってもたらされた教育の民営化に対して闘っています。

私たちはともに、教育の民営化に対して闘わなければいけません！

団結！がんばろう！

◆福島大学学生

現在の福島では、安全だと言う人、危険だと言う人と様々な情報が存在するため、何が正しいのかわからない状況になっており、考える事が出来なくなっています。その中で、わからないからこそ安全側をとりたいと避難を決断された方もいますが、いろんな状況の中で、どうしても避難出来ない人が多く存在します。復興をというが、放射能を気にしなくても良いのか？ 除染もやるほどに、完全には無理なのがわかってくる。これから出てくるであろう子供達の健康被害も、福島の闘いは始まったばかりだと思います。皆さんのご協力をよろしく願います。

◆花澤 俊之

弁護士・第二東京弁護士会所属
法大弾圧裁判弁護団

「すべての原発いまずぐなくそう！ 全国会議」
呼びかけ人

時は満ちた。

私たち弁護士も闘い、表現の自由を、そして君たちを全力で死守します。

◆沖縄北部合同労組・うるまユニオン

執行委員長 富田 晋

全学連大会に結集された学生の皆さんの、お疲れ様です。大会の開催を心から祝福致します。沖縄より共に闘う決意を込めたメッセージを送ります。

資本主義社会と新自由主義攻撃が3・11の「人災」と原発事故によって、未来まで奪う存在であったことが全世界の労働者・学生のもとに明かされました。

同時に新自由主義攻撃の中で未来と自由を奪われ、非正規労働を強いられてきた青年労働者と学生を先頭に全国で革命の火は燃え広がっています！ そして、本質的にはその新自由主義と真つ向から闘ってきた私達を中心に「反原発」の闘いが大きく爆発しています。

私達は今までの常識に囚われることなく、さらに11月集会に向けて大きく前進することを求められています。沖縄でも「NAZEN・沖縄」結成に向けて闘う決意です。

私自身は自分の外注化職場において、労働運動を甦らせるべく悪戦苦闘の日々です。

職場の仲間と討論する中で「原発・基地・失業」の議論となります。

職場の仲間は「もちろん戦争は反対だ。しかし、一概に基地・原発反対とは言えない。沖縄は基地で繁栄してきた。原発の地域もそうだ。そういうシステムが悪いのなら、どんなシステムの社会なら良いのか」と言ってきます。私が「労働者が社会の主人公が次の社会だ」と訴える。すると、「共産チックなのは失敗している。よくないのでは」と言ってくる。

沖縄の「反原発闘争」は一体で「反基地闘争」です。日々の職場闘争は「基地あつての沖縄」イコールして「会社あつての労働者」というイデオロギーとの闘いです。

一長一短ではいけないけれども、私達は職場実践・議論を通して「基地撤去・解雇撤回」というかつての基地労働者の闘いを甦らせ、「反スターリン主義」の旗の下で戦後労働運動を乗り越える闘いを開始しています。

辺野古新基地建設を巡る闘いも大きく動き出しています。野田政権は来年にも新基地建設の為に「埋立て申請をする」と豪語しています。三里塚と一体で沖縄に襲い掛かってくるということですよ。

辺野古で16年間闘い抜いてきたおばあ達は「このままでは政府に勝てない」と労働運動と政治闘争の危機的状況を肌で感じ、訴えてきています。

これと立ち向かうには、「反原発・反戦・反基地・反失業」を掲げた、全国の闘う労組と学生組織が今まで以上に突出し、仲間を広範に組織し、団結を拡大する以外にありません!!

皆さん、私達は「反原発・反基地」という何百年先の未来を賭けた大闘争の真つ只中にその身を置いています。そういう意味ではとても厳しいし、激しい。

しかし、だからこそ私達は無限の展望を持った明日を作る一人として生きることが出来る!!

全労働者・全学生の未来を賭けて明日のデモへ打って出ようではありませんか!!!

明日の9・11は沖縄でもデモをやります!! 9・11を全国で大爆発させて、11月集会へ数万・数十万の隊列を作り出そう!! 最後まで共に闘いましょう!!

◆下田禮子

反戦被爆者の会

「すべての原発いまずぐなくそう！ 全国会議」

呼びかけ人

全学連第七十二回定期全国大会おめでとうございます。日本最大の国難に対し貴方達は東北大を先頭に沈着正確に原発反対闘争に力を入れられ闘ってこられた事に敬服いたします。

フクシマの事故はチェルノブイリに匹敵する汚染をその地にまき散らし色も臭いもない悪魔の気体。ヒロシマの被爆者である私はその放射能の恐ろしさを知っています。私は被爆した時から又中曽根達の原発平和利用のうそっぱちも大反対してきました。何が安全なものですか。フクシマを誰も住めない様にした責任は彼等にあります。絶対に責任は取って貰わないといけないと思います。原爆にあった私たちは放射能も何もわからないままその水を飲み物を食べそこに住み今まで何とか生きてきています。戦時中のように何の支援も何の援助もなく必死で生きてきました。フクシマの方は本当にお気の毒なこととは思いますが、余り気を落とさないでください。むごい言い方かもしれませんが、何くそと気を張れば又希望も持てると思います。

私の母も主人の文も友達の一発の爆弾でひどい火傷で二、三日の内に亡くなりました。川口も防火用水の水槽にも死体

がいつぱい。爆心地は何千度の熱で灰も残らないくらいでした。でも私たちは必死に、反戦反核を信条に生きてきました。若い学生さん。今からが正念場です。

原発は戦争の為の物です。若い人を戦争で死なせるわけにはいきません。闘って闘って戦争の起こらない平和の世にして下さい。

大災害の時でさえ友達作戦とか言って戦争の準備をするアメリカに取り入る政府が許せません。

若い方に負の遺産が多すぎると思いますが、皆さんで力を尽くして下さることを期待します。

大会の成功をお祈りしています。

我々は体が資本です。ご自愛下さいませ。

◆自衛隊の海外派兵に反対し二度と侵略戦争を許さない共同行動委員会 (反戦共同行動委員会) 代表 三角 忠

第72回定期大会を迎えられた全学連へ心からの敬意と熱い連帯のメッセージを送ります。

大失業と戦争に労働者階級人民を叩き込む新自由主義の凶悪な本性が3・11東日本大震災、とりわけ福島第一原発の爆発によって誰の目にも明らかになりました。

誕生した民主党野田政権は、フクシマの怒りとそれと結合した「原発なくせ」の労働者・農民・漁民・学生の原発の大運動をかき消し、復興増税を公然と打ち出し、公務員労働者のクビ切り・給与1割削減などを矢継ぎ早にしかけ、再開強行した北海道泊3号機をはじめ、再稼動・新規建設促進に動き出そうとしています。

今こそ「核と人類は共存できない」ことを突きつけ、全世界の労働者階級人民の反戦反核のうねりを私たちがつくり出さなければなりません。9・11と9・19の連続決起の先頭に全学連が立ち切ることを確信し、わが反戦共同行動委員会もそれとガッチリスクラムを組んで闘います。その闘いを通して、11・6全国労働者集会1万人の結集をつくり出しましょう。

全学連の若き諸君！ 全世界の労働者人民が団結し、共に生き、共に闘い、世の中を切り開く今秋決戦に猛然と立ち上りましょう！

※三角忠さんは「すべての原発いまずぐなくそう！ 全国会議」発起人でもあります